神奈川県立歴史博物館
Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History

論題	幕末・明治初期の在留清国人取締関係資料について ―外務省記録『条約未済国及清国人取締方参考書』―
著者	岩壁義光
掲載誌	神奈川県立博物館研究報告―人文科学―　第 15 号
ISSN	0910-9730
刊行年月	1989 年（平成元年）3 月
判型	JIS-B5（182mm × 257mm）

〈史料紹介〉

幕末・明治初期の在留清国人取締関係史料について

―外務省記録『条約未済国及清国人取締方参考書』―

（外務省外交史料館所蔵）

岩壁義光

【解題】

一、はじめに

筆者は『神奈川県立博物館研究報告』第十四号において日清戦争期に一方の戦闘当事国人民となった在留清国人が如何に取り扱われたかを知るため、在日米国総領事報告を紹介した。今回は、在留清国人関係史料の第二段として明治初期の在留清国人取締関係史料を紹介したい。

二、幕末・明治初期の条約未済国人取締問題（史料概容）

史料名にある条約未済国人とは、ここで申し上げるまでもなく条約締結国以外の条約締結前の外国人民を指しているが、開港以後その代表的存在は清国人であり明治に至ってもその事実は変わらなかった。

詳細は別稿に譲るが、いわゆる安政の五カ国条約締結以後、英・米両国を中心として開港場には欧米貿易商人が上海や香港などから渡来したが、彼等は中国貿易で清国人の手腕を高く評価し買弁や事務員として、さらにサーバントや料理人などとして多数を随伴し未知の開港場に来航した。当時、幕府と清国との間には条約関係がなかったため、本来的には清国人が清国人として来日し開港場に住み着くことは不可能なことであったが、締盟各国の商人は日本官憲に対して清国人を飽くまで自国民として主張して上陸させたため、幕府はこれに対して条約上から居留地への在住を拒めず具体的な対処が出来ないでいたのである。しかし実際上は米英領事が主張したように「一季雇之者」[1]、すなわち一時雇の労働者であったため解雇されれば条約上の在留根拠を失う状態にあった。こうした不安定な清国人の状態に拍車を駆けたのは雇用主の帰国であった。来日した欧米各国商人がすべて順調な商業活動を営めた訳ではなく、むしろ事業に失敗し帰国した商人は成功者を遙かに上回っていたと考えてよかろう。こうした営業に失敗した欧米商人は帰国するに際して随伴してきた清国人を開港場に置き去りとする場合がほとんどであった。先述したように清国人たちは入国時には条約国人として所属した雇主の国の法律下に置かれたが、雇主を失った後は文字どおり条約未済国人として遇されることになった。特に横浜は、長崎が福建省を中心として伝統的な中国商人の居住地であったのとは異なり、商人よりも下働きや料理人を主としていた広東省出身者が比較的多かったため[2]、こうした彼等を如何に取り扱うかが大きな問題となっていた。

各国外交団は清国人に代表される条約未済国人に関しては、基本

的には日本人同様に神奈川奉行がその法度によって取り締まり、裁判執行については神奈川奉行を援助するという名目で各国領事が立会うか、または清国人雇主の領事のみが裁判に立会うといった変則的な方法を原則的に認めていた。このことが成文化され、一応の規則として形づくられるのは慶応三年（一八六七）十一月に制定された「横浜外国人居留地取締規則」の第四条[3]であった。第四条は「横浜居留地又は神奈川港内に居住する支那人或は条約未済の外国人取締向竝に刑法は、神奈川奉行より右取締役存寄を尋ね、且外国コンシュルへも相談の上可取計事」と規定している。これによって在留清国人および条約未済国人は神奈川奉行の裁判管轄権下に置かれ、神奈川奉行は「取締役」すなわち神奈川奉行の指揮下にある外国人取締役と外国領事の忠告と援助を得て清国人および条約未済国人を取り締まることになったのである。

神奈川奉行は先述したように幕府の法度によって清国人および条約未済国人を取り締まることになったが、その前提として彼等の所在実態を掌握するため外国人取締役長官マルティン・ドーメンの名で取締の規則を発することにした[4]。この規則は、清国人および条約未済国人に対して居留地取締局に出頭し手数料を支払い名籍に記載することに中心が置かれていた[5]。この名籍記載と手数料の支払いは条約未済国人を一般町民としてすなわち日本人と同様に取り扱う方向を一方では示しているようにみえるが、他方では官憲が開港場における条約未済国人を可能な限り個別的に掌握していこうとする指向を貫徹しようとする性格を濃厚に持つものであった。

この在留清国人を中心とした条約未済国人取締形態は、開港場における実質的な対外的関係の経験をほとんど持たない明治政府にそのまま継承されていくが、神奈川奉行の採用したこの形態は各開港場判事が外務省に回答しているように形成の過程から考えてみても、横浜の外国人居留地をあくまでも対象として適応されるものであった。しかし中央集権国家として誕生した明治政府にとっては、これを全国に通用する法律として再編する必要があった。なぜなら各開港場において条約未済国人の取締方法及び規則が区々相違するようなことがあっては、中央集権国家としての対面を保持し得なくなるからである。このため横浜を全国の開港場のモデルとして、横浜で採用されているこの規則を全国に適用しようと考えたのであった。しかしながら兵庫、長崎などから横浜の規則をそのまま採用することは各地の実状に合わないとして反対が起こり、政府は旧慣を調査する必要を実感し近世から続く長崎の清国人取扱状況の調査に乗り出した。その一方、徳川政権下で対中国貿易を独占してきた長崎に対して外交交渉が中央国家である明治政府の専権である旨を通知していることは、地方と中央に存在した明治初期の外交交渉に関する意識のズレを示す事実として興味深い。

さて、なんらかの理由で雇主を失うと在留の清国人たちは条約未済国人として開港場に取り残され、個々の居留欧米人の家屋からも離れざるを得なくなるという状況が出現した。こうした人々は新開地に集中するのが一般的な動向であったようで、横浜の場合は新田埋め立てによる造成が最も遅れた横浜新田地域に徐々に集中し、後

日の南京町（中華街）を形成していったと言われている。こうした生活手段から弾き出された清国人の中には賭博行為に走ったり阿片吸飲の悪習に酔った者も少なくなかったようで、幕末から明治期を通じて清国人が日本社会にもたらす問題として常に疎まれたのはこの二者であった。しかし今回紹介する史料でも見られるように、居留地の急速な発展の陰で社会からドロップアウトした清国人に対し、本来彼等を保護し取り締まるべき居留地取締官が彼等に博奕場の営業を保証する代償として賄賂を強いている形跡も濃厚で、居留地内で展開された清国人間の軋轢や条約未済国人であるが故に置かされた弱者の実態の一面を覗くことが出来る。

ところで犯罪を犯した条約未済国人の内で死罪以下の者たちは禁固の後香港等へ追放されるのが一般的な措置であった。その追放に際しては船長から「請合之証書取候而已」で特に送り状に相当する書類は無かったようである。ただ条約未済国人の犯罪前歴者が再渡航することを防止する意味から全身写真を撮影して日本から追放し、「犯罪之始末相記各港江相達置再来候ハヽ当罰を加へ」再度香港等へ追放するよう取り決められていたのである。また明治期に入っても犯罪を犯した在留清国人は一般的に日本の刑法によって罰せられたが、太政官札の偽札製造事件として知られる「竹溪贋札事件」[6]にみられるように条約未済国人の死刑は「御国人同様伺之上取計」らわれるように決められていたが、死刑よりも軽い刑罰の犯罪者に対しては「御国人同様之律を以手限ニて御咎等申付」ることが慣例となっており、問題が複雑で「難決分は其時々相伺」以外は通常各国領事の立会いの下で開港場の管轄官庁に一任されていた。ただしこの領事立会いは外国側にとっても日本側にとっても煩わしかったようで、死刑以下の犯罪については領事の立会いを廃止する方向が検討されたが、英仏両領事は従来の慣例を重視し刑罰が死刑以上以下を問わず、条約未済国人の裁判はすべて領事立会の下で実施されるよう主張して譲らなかった。

以上のような幕末から明治初期の清国人を中心とする条約未済国人取り扱いに関して、明治政府の中央集権国家としての確立と並行して次第に各開港場における措置に統一制が無いことへの批判を高めて、明治四年に「日清修好条規」が締結されたのを契機に統一的取締規則制定への動きが生まれていく。しかし同条規が清国領事館設置まで日本側が在留清国人管轄の責務を代行することを規定していたため、結果的に各開港場は清国領事館開設まで幕末の慣習を継続することになるが、その際に求められたのが全国統一の清国人統轄規定であった。これが「清国人民統轄規則」であり、さらにこれを改編した「清国人民籍牌規則」である。本史料はこうした日本において統一的な清国人統轄規定制定前に展開された近代日本胎動期の対清国人民対応を知る上できわめて興味深い事実を現在に伝えてくれている。また、本史料を充実する上からも次号以降、外務省記録『在留清国人民籍牌規則竝ニ実施一件』ほか各地開港場における在留清国人関係史料を紹介していく予定である。

三、史料構成

本史料は外務省外交史料館に所蔵される外務省記録「条約未済国及清国人取締方参考書」（史料番号3－9－4－4）である。該史料は本来編集目録番号第壱号から第四十五号までの文書によって構成されているが、今回の史料紹介では第壱号は割愛した。その理由は紙面に余裕がなかったことのほか、同号史料の参考部分は『続通信全覧』「類聚之部」「規則門」に編纂された「各港滞留条約未済外国人処分一件」（以下「処分一件」と略す）の部分的抜粋であり、また「処分一件」はごく一部を除いて全文が『神奈川県史』資料編⑮（近代・現代5）「渉外」に「清国人その他条約未済国人取扱方の件」として収録されているため、新たに再掲載する意味が無いと考えたためである。ここでは次に第壱号文書の本文のみを掲載するに止め、その後に参考文書と「処分一件」文書の対応を明らかにしておきたい。

第壱號、神奈川縣判事へ條約未濟外國人竝支那人取締同港規則書
送致スヘキ旨ノ往翰　　明治元年十二月十三日

（往翰）
十二月十三日差越
中將（東久世通禧）
民部（町田五位）
範蔵（山口範蔵、のち尚芳）　小一郎（宮本小一郎）
貞助（南貞(介)助）　修理介
莊蔵（都築莊蔵）　弾正（岡本弾正）
岩雄（遠藤岩雄）
貞之介
當一

條約未濟國人竝支那人取締之儀ニ付各國公使打合濟ニ而取極候規則書竝御雇外國人勤向ともいさい取調急速御さし越可成候右者今般各港とも御地之規則を以取極候積ニ付至急之覧用ニ有之候間書類寫取方等御手繰有之度趣候此段申入候也
明治元年十二月十二日　　外国官判事
神奈川縣判事　御中
＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

（返翰）
十二月廿三日
中將（東久世通禧）
民部（町田五位）　小一郎（宮本小一郎）
貞助（南貞(介)助）　修理介
莊蔵（都築莊蔵）　弾正（岡本弾正）
岩雄（遠藤岩雄）
貞之介
當一

御書狀致拝見候然者條約未濟國人竝支那人取締之儀ニ付各國公使打合濟規則書御雇外國人勤向とも委細可申遣旨御申越之趣承知いたし則別冊書類寫取差遣候間委細右ニ而御承知有之度候此段御報申入候

也

明治元年十二月廿三日　　神奈川縣判事

外國官判事御中

（参考文書略）

十十十十十十十十十十

最後に前掲「第壱號」後半に掲載されている参考文献と「処分一件」掲載文書との関係を明らかにしておきたい。〇数字は「第壱號」に掲載された参考文書の順番で、それに引き続いて記した文書名は「処分一件」の文書目録に表記された文書名である。また文書名のあとの表記は「処分一件」第一冊から第四冊までの時代別目録中の掲載順序を示し、〈〉は複数収録の場合の順番を示している（例えば二-K1-1〈1〉は、第二冊目の慶応元年の目録の第一号文書の第一番目に掲載されていることを示す。なおBは文久、Gは元治を示す）。

①同廿八日條約未濟國ノ旅客等便船着港上陸ノ者處置方法外國奉行ヨリ神奈川奉行ニ諮問ノ往復書　（元治元年）　二-G1-3

②十月十二日閣老ヨリ英公使ニ送ルヘキ條約未濟外國人處分ノ書翰按英書記官ヨリ來スノ來翰　（元治元年）　二-G1-2

〈後半のみ〉

③十二月三日條約未濟國人ノ處置神奈川奉行ノ意見諮問スヘキ旨外國奉行ノ上申　（元治元年）　二-G1-4

④正月十八日英公使ノ來タセシ閣老ノ書翰按神奈川奉行ノ申議　（慶応元年）　二-K1-1〈1〉

⑤正月十八日英公使ノ來タセシ閣老ノ書翰按神奈川奉行ノ申議　（慶応元年）　二-K1-1〈3〉

⑥三月日欠長崎滞留ノ支那人檢束方法同所奉行ノ上申　（文久二年）　二-B2-1〈1～3〉

（付1）二月廿六日英公使ヨリ閣老ニ支那人等ノ上陸ヲ禁スルハ政府ノ威權内ニ在レハ決定公報アラハ各港岡士ニ命シ船將ニ告ケシムヘシトノ來翰　（万延元年）　一-M1-2

（付2）二月十八日閣老ヨリ英佛米蘭公使孛岡士ニ外國奉行ヨリ瑞葡岡士ニ各港滞留ノ條約未濟國人退去サセシムルノ處置等商議依頼ノ書翰　（慶応元年）　二-K1-2

（付3）同上本文略（ただし「元治元年」と誤記？）

（付4）廿五日柴田日向守瑞西「リントウ」ト對話書　（慶応元年）　二-K1-3

（付5）三月十三日英公使ヨリ閣老ニ條約未濟國人ノ處分ハ本國政府ノ命ヲ得サレハ處置シ難ク夫マテハ皇國裁判所ニ附屬セシメ各國岡士ヲ助手トナス好カルヘシト公告書按添ヘ申陳ノ來翰　（慶応元年）　二-K1-4〈1〉

（付6）同十五日米公使ヨリ閣老ニ同上　（慶応元年）　二-K1-5

（付7）同廿日佛公使ヨリ閣老ニ同上

（慶応元年）　二-K1-6〈3〉

（付8）同廿一日蘭公使ヨリ閣老ニ同上

（慶応元年）　二-K1-7

（付9）同廿五日孛岡士ヨリ閣老ニ條約未濟國人ヲ處分スルノ權ナク皇國政府ノミ其任アレトモ寛裕ニ處置スヘシトノ來翰

（慶応元年）　二-K1-8

⑦四月二日佛英米蘭公使孛岡士ノ返翰同旨ニテ神奈川奉行各岡士ト商議シ規則決定スベキノ下命ヲ請ヒ且同奉行最前ノ申議モアレハ尚意見諮詢アルヘシト外國奉行ノ上申

（慶応元年）　三-K1-1〈1〉

⑧神奈川奉行ニ指令按

（慶応元年）　三-K1-1〈3〉

…⑨以下は巻頭に掲載された編集史料目録件名と内容が相違…

⑨四月十三日閣老ヨリ英公使ニ前件來意異存ナシ各港奉行ニ下命スヘケレハ其國人ニ告示且佛公使ニ演達等ヲ請フトノ返翰

（文久元年）　一-B1-4

⑩同（4月）廿四日佛英米蘭公使等ノ返翰ノ如クニハ處置シ難ク暫ク舊ノ如ク据置別紙按ノ再返翰ヲ送リ然ルヘシト神奈川奉行ノ申議、閣老ヨリノ返翰按

（慶応元年）　三-K1-11〈1～2〉

⑪外國奉行ノ申議

神奈川奉行ニ指令按

（慶応元年）　三-K1-11〈3～4〉

⑫七月七日閣老ヨリ英佛米蘭公使ニ條約未濟國人檢束ノ規則各岡士ト商議決定スヘキ旨神奈川奉行ニ令セシヲ以テ其岡士ニモ告示尚注意ヲモ請フトノ書翰　（慶応元年）　三-K1-14

⑬同八日閣老ヨリ孛岡士ニ條約未濟國人檢束ノ規則注意ノ旨趣アレトモ佛英米蘭公使ノ意見モアリテ各岡士ト商議スヘキ旨神奈川奉行ニ令セシヲ以テ談判アルヘシトノ書翰

（慶応元年）　三-K1-15

（註）

（1）「万延元年正月長崎奉行岡部駿河守申稟」（「各港滞留条約未済外国人処分一件」『続通信全覧』外務省外交史料館蔵）

（2）『横浜市史』第三巻下　八六四～八五頁。須山卓ほか『華僑』（NHKブックス）七一～七二頁

（3）『法規分類大全』外交門四　八一～八五頁

（4）「千八百六十七年第十一月　新聞紙布告竝支那人へノ喩告文写」（前掲「各港滞留条約未済外国人処分一件」）

（5）「慶応三年十一月　当港在留支那人取締方之儀ニ付申上候書付　水野若狭守・依田伊勢守宛神奈川奉行上申」（前掲「各港滞留条約未済外国人処分一件」）には、在留清国人を「三等ニ相分ケ伴頭又ハ開市罷在候ものは壹人ニ付洋銀拾五弗ツヽ、職人等は洋銀七弗ツヽ、傭主無之者竝小遣等仕居候ものは三弗ツヽ、取立名前取調置何等不良之品所業有之節ハ右取調候手續ニ随ひ取締仕候積御座候取調候右取立金之儀は別紙ニも申上候通英佛人捕卒頭竝捕卒御雇料竝諸買上物其外取締ニ付候入費江遣拂候」と、名籍手続きと手数料の関係を述べている。

（6）竹溪事件に付いては前掲『横浜市史』八六九～八七九頁。また史料として「竹溪贋札一件」（『横浜市史』史料編十九　四一九～五

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

【史料】

凡例

一、本稿は原則的に正字を用いたが、「ゟ」「ゑ」は「は」「に」とした。

二、各史料の「第何號　・・・」という史料表題は、原本巻頭に掲載された史料目録の表記に従った。

三、各文書に（）で記載した内容は筆者の割注である。また、原文の書き込み、訂正は文書ごとに明記し、可能な限り原史料の状態が分かるように心掛けた。

第貳號、兵庫県へ支那人其外條約未濟國人取締方横浜規則添各港同一ニ心得ヘキ旨通知ノ往翰　　明治二年正月十四日

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

中將（東久世通禧）印

町五位（町田五位）　印　　小一郎（宮本小一郎）印

貞助（南貞（介）助）　印　　忠吉（北代忠吉）　印

莊蔵（都築莊蔵）　印　　修理介　印

弾正（岡本弾正）　印

岩雄（遠藤岩雄）　印

岩司（石川岩司）　印

貞之介　印

當一　印

主馬　印

（欄外朱書き込み）「正月十四日出ス」

（本文）

支那人其外條約不相濟外國人取締之儀ニ付兼而御懸合之趣有之處横濱おゐて別冊之通規則相立居候間各港も右同様ニ取締可然評決致し候間爲御心得別冊相廻し候委細ハ横濱江爲御聞合可有之候此段及御通達候也

正月十四日　　外國官

兵庫縣御中

第三號、兵庫縣ヨリ前件承諾書面差戻シノ來翰　　明治二年正月廿九日

（欄外書き込み）「正月廿九日」

（本文）

支那人其外條約不相濟外國人取締之儀ニ付兼而御懸合之趣有之處横濱おゐて別冊之通規則相立候間各港も右同様に取締可然評決致候間爲御心得別冊相廻し候委細は横濱江爲御聞合可有之候との御懸合委細致承知候得共別冊は則過日御懸合ニ相成候同文ニ而全支那人其外條約無之外國人取締之儀ニ付候向之書面ニ而は無之候ニ付御差返申候間左様御承知被下度尚又於横濱取極相成候規則書匆々御差廻有之度此段御報旁及御照會候已上

正月廿九日　　兵庫縣

外國官

第四號、長崎府判事へ支那人取締同國上海道臺往復回送スヘキ旨照會ノ往翰　　明治二年二月四日

附屬：長崎奉行ヨリ支那道臺へ往復書翰月日調書

（書き込み）「二月四日出し濟」

（印）「寫濟」

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

町五位（町田五位）　印　　小一郎（宮本小一郎）印

貞助（南貞（介）助）　　忠吉（北代忠吉）　印

莊蔵（都築莊蔵）　印　　修理介　印

弾正（岡本弾正）　印

岩雄（遠藤岩雄）　印

岩司（石川岩司）　印

貞之介　印

當一　印

（本文）

主馬　　印

長崎府判事御中　　外國官判事

支那人取締之儀ニ付同國上海之道臺ゟ之返翰寫相添御達書之趣承知いたし候
右書面は返翰之様ニ相見候間此方ゟ被遣候書翰寫御差越可被成候右等取調候
上ニ而各港へ可相達候一躰其土地限之事ニ無之外國江御懸ケ合相成候儀ハ外
國官主務之處一應之御相談も無之御取極ニ而ハ不都合ニ付以後は支那等へ御
懸ケ合之書面は前以御廻し有之様致候此段御報旁及御懸合候

巳正月

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

（欄外印）「校合濟」「附屬」

（本文）

一　舊幕府之節長崎奉行より支那道臺江差遣候兩度之書翰寫ニ長崎府ゟ添書
　　從來當府在留之支那人取締之儀は去ゝ二月五日附ニ而到來
　　壹通　上海道臺呉大人江文久二年十二月日長崎奉行大久保豊後守ゟ
　　壹通　長崎奉行河津伊豆守ゟ慶應三年丁卯月日
一　外國官判事・大隈八太郎宛　　長崎ゟ
一　別紙支那道臺より之書翰寫竝譯書云々
　　十二月廿七日出正月廿日暁達也
一　來翰明治元年戊辰十二月上海道臺ゟ
一　長崎府在留之支那人江布令書寫
一　同在留外國岡士江判事より達寫
一　外務省御中　　長崎縣
　　元禄以降支那人當港ニおゐて犯科之ものは其罪云々

巳十月

壹冊伺とも往復五通

一　唐國上海道臺へ書翰差遣候儀ニ付奉伺候書付
　　大久保豊後守（忠恕）

當夏中唐國上海之模様竝商法等之儀云々

右書類左之通表題相記宮本少丞へ差出

十一月廿日　　舊幕府之節長崎奉行ゟ支那道臺江往復書類

第五號、長崎縣へ前件原文同送スヘキ旨ノ往翰　　明治二年十二月三日

（付箋）

「此道臺ヨリ差越候書ノ返翰ヲ宣嘉在勤中遣シタリ此返書ノ寫モトリヨセ可申事」

（欄外書き込み）十二月三日達ス

（欄外印）「寫濟」

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

卿　印　　大丞　印　　大録
大輔　印　　權大丞　印　　少録
　　少丞　印　　史生
　　權少丞　印

（ゴチックは書き込み）

（本文）

長崎縣御中　　外務省

支那道臺へ之往復書翰先日御さし越之處別紙同治七年戊辰三月日と相認
有之書翰は譯文計りニ而源文無之然ルニ急速入用之事有之候間右寫早々御
さし越可成候
一　別紙書翰支那ゟさし越候ニ付猶澤外務卿殿御地在勤中返書被差候由右源
文譯文とも御さし越可成候
一　右道臺ゟ返書之本書ハ何レも御収蔵之事と存候追而入用之儀も可有之候
間御取調置可成候
一　從來唐船入津之節兼而舊幕府之節相渡置候勘合印照合賣買さし許候手續
只今ハ廢絶ニ可有之候得共右之儀いさゐ致承知度古キ書付類も有之不残御
寫取之上御さし越可成候**右ハ今般支那通信御用取調ニ付追々必用相成候ニ**

付左樣御承知可成候此段及御掛合候也
己十二月

（末尾に朱にて付記）
別紙支那道臺ゟ差越シ之書翰寫相添

第六號、長崎府判事へ清朝官府ノ文章ニ熟達竝通辨兼帶ノ者二兩人在勤スヘキ旨ノ往翰　明治二年十二月十八日
（書き込み）「元年長崎往」
（欄外印）「寫濟」
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
民部（町田五位）　印　小一郎（宮本小一郎）　印
範蔵（山口範蔵、のち尚芳）印　修理介　印
貞助（南貞（介）助）　印　弾正（岡本弾正）　印
荘蔵（都築荘蔵）　印　貞之介　印
岩雄（遠藤岩雄）　印
當一　印

（本文）
長崎府判事御中　外國官判事
皇政御一新ニ付而は支那國之儀隣接異國故是非とも條約不取結候而は不相濟候間來春は早々右之事取調候積り就而は清朝官府之文章ニ熟達いたし竝唐通事兼帶之もの一兩人人撰之上東京在勤御申付有之樣致候いさゐは正月範蔵出張ニ付申遣候間左樣御承知可有之候以上
十二月十八日
今十八日差出ス尤山口範蔵樣參上候事

第七號、長崎府判事へ從來同府於テ在留ノ支那人取締向竝往復書翰回送スヘキ旨ノ往翰　明治二年十二月廿五日
（書き込み）「元年長崎往」
（欄外印）「寫濟」
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
民部（町田五位）　印　小一郎（宮本小一郎）　印
貞助（南貞（介）助）　印　修理介　印
荘蔵（都築荘蔵）　印　弾正（岡本弾正）　印
岩雄（遠藤岩雄）　印
貞之助　印
當一　印
主馬　印

（本文）
從來於其府在留之支那人取締之儀は如何総括相成居候哉巨細御申越有之度左候は支那往復書簡竝支那之關係スル書類御寫調早々御廻し有之度至急取調相成候儀有之候間可成丈差急御回答有之度早々申入候也
極月廿五日　外國官判事
長崎府判事御中

第八號、長崎縣ヨリ前件支那道臺往復書類回送ノ來翰　明治三年正月日欠
付屬
○支那道臺往復書
○支那通商照牌勘合等ノ手續竝漢文
（罫紙）片面十行「外務省」罫紙
（書き込み）「第八號」
（欄外印）「校了」
（本文）
午正月
外務省御中　長崎縣
舊冬御申越之支那道臺往復書類取調別紙差進候間御收入可被下候右之内澤知

事殿御發出之返翰は譯文無之猶々先年支那通商勘合印信等之儀も別紙二而御
承知可被下候也
　正月

++++++++++++++++++++++++++++++

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙
（欄外印）「校了」
（封表書き等）
「大日本長崎総督　台啓」、緘篆五分方、七寸七分五厘×四寸弐分五厘、
紅箋横幅二寸六分
（本文）
　恵風遠布展奉
徳音承
示　貴國人有稟請欲赴中土傳習學術經營商業就便僑寓者向後或有
此等人來望爲照應擬將其照驗印章送交道署查核箝束等語具見
執事謹慎爲心言歸於好査經營商業之人前於
　甲子年二月間有
貴國官員山口錫次郎等五人來滬云稱由本國稟明大將軍乘坐夾板船遊
歷各以習風濤因有商人求帶海菜貨物數種至滬消售求報關納税即當
刻日回國竝不上岸居住旋於税鈔交清貨物售完後起碇回國竝未就此
僑寓今
來翰所云傳習學術不知所傳係何項學術是否欲就中國人傳習抑欲傳與
　中國人習學請即詳悉見示以憑稟明
　上憲主持再行布復
左右事關中外交渉本道職僅監司絲毫不敢檀主所有查核
貴國印章照驗之處未便接収苟
貴國人來中土果能入境問禁入國問俗一守中國法度與我小民無争無忤
　則我邉界吏民知
朝廷懐遠之忱自能推心置腹盡信盡誠皆有賓至如歸之樂無庸預囑也重
洋懸盻肅復以聞不盡馳系
同治七年歳次戊辰三月　日　　名另具
　應寶時

>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>

　慶應四年辰閏四月
　　長崎総督府ヨリ支那上海へ復翰之控

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙
（欄外印）「校了」
（本文）
　前此本邦長崎舊宰致書
左右乞以本邦人赴
貴國傳習學術及查核印章等件爲言
金玉無靳便恵　裁示實爲欣幸承　問所傳
係何項學術云云蓋其所謂學術者凡有益
於我國家之事不論何項皆欲使之學焉者
也至其查核印章一節
執事敬慎即不敢専但願仍轉申
上憲是祈如其入境問禁入國守法則我自當
　預爲嚴飭而可不煩教矣又本邦擧國之政
　委之將門久矣以之嚮航
　貴國者不得不稟明於將軍也今
皇綱肇就一新
聖躬親總萬機本職因奉
勅命來鎮長崎欽承
皇室之徳意將欲以修善隣之好其所言推心置
　腹盡信誠者固所願也層濤漫肅復以報
　不具

慶應四年戊辰閏四月　日

〉〉〉〉〉〉〉〉〉〉〉〉〉〉〉〉〉〉〉〉

唐方通商ニ付相渡照牌勘合等之手續

・・・・・・・・・・・・・・・・・・

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙

（欄外印）「校了」

（本文）

唐船通商ニ付相渡候印證ハ信牌と唱へ先聖堂書物改役ニ而相認舊幕奉行所江差出譯司會同之印章を据當港より唐船開帆之當日ニ其船主を奉行所へ召出奉行出座目通ニおゐて相與候事

一　右給牌之節領牌之船主より配銅證文と唱へ候商法定額規則等之請書貳通其船主より奉行所へ差出候右之内壹通は勘合之ため其船主へ下渡再度通商之節右信牌一同爲相納照合致候事

一　給牌差許候港門左之通

南京　寧波　臺灣　厦門　廣東　暹羅　廣南　占城　咬嗹吗　東京

柬埔寨

右港門ニより通商之銀高夫々差別有之浙江より仕出シ之船は都而厦門格ニ而商賣差許候事

一　唐商共貿易筋ニ付而は是迄雙方官府之引合ニ而文書往復之儀は舊記等ニ相見不申都而唐商來港其筋進退之儀は從來唐通事之管轄ニ相屬シ通商致來候事

〉〉〉〉〉〉〉〉〉〉〉〉〉〉〉〉〉〉〉〉

長崎通商照票

・・・・・・・・・・・・・・・・

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙

（欄外印）「校了」

（欄外書き込み）「長崎通商照票」

（本文）

校了

長崎譯司　某某某某某某某　特奉

鎮臺憲命爲擇商給牌貿易肅清法紀事照得爾等唐船通商

本國者歷有年所絡繹不絶但其來人混雜無稽以致奸商故違禁例今特限定各港船額本年來販船隻内該某港門幾隻每船所帶貨物限定估價約若干兩以通生理所諭條款取具船主某親供甘結存案今合行給照即與信牌一張以爲憑（「凭」と同じ）據進港之日驗明牌票繳訖即収船隻共無憑據者即刻遣回爾等唐商務必愈加僅飭倘有違犯條款者再不給牌票按例究治決不輕貸各宜慎之須至牌者

年月　日給　右票給某港門船主某

譯司會司之印

限到

・・・・・・・・・・・・・・・・

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙

（欄外印）「校了」

（本文）

某年第某番某港船主某同唐具立憑照

一　遵法所禁呂宋其外毋諭何處天主教寄住等國俱不敢前往

一　再來日本之日不特抜帖連異爾蠻南蠻廟和尚之徒及天主教門黨乙人不敢載來

一　日本之人乙人不敢載回

一　日本軍器及武將畫像等件不敢帶回

一　足色紋銀併除准定額銀外之銀及金子分厘不敢帶回

一　洋中不敢爲非劫掠

一　寓中與日本人竝交加差舛

一　須定銀額幾萬幾千兩換雜色銀額幾千兩併送寺送廟各項人事元價銀幾千幾百幾十幾兩餘賣銀額幾千幾百幾十幾兩共幾萬幾千幾百兩交易俱竣内計幾百兩准帶版銀幾萬幾千兩銅觔幾萬幾千兩包頭什色幾千幾百兩費用合算清訖毫

無差錯竝無寄留貨物
一　本港登船以至開駕之後一如從前甘結確守倘若遇飄到意外之地亦照條約甘結遵守
一　再來之日帶來貨物照須定銀額不敢少縮
一　再來之日從前條約遵守不敢違怠以上各款不敢背違如有毫犯某等人船再來之日任憑處治甘願受罰立此存証
年月　日　　某年第幾番某港船主某
　　財副某
　　總管某

第九號、兵庫縣へ支那人其外條約未濟國人取締方照會之往翰
　　明治三年正月日欠
（欄外書き込み）「第九號」
（本文）
午正月　　外務省

兵庫縣御中
支那人其外條約未濟國人取締之儀ハ舊幕之節各公使と協議決定兼而差進し置候規則書之通り御一新後も横濱表ニ而連綿取行候儀ニ有之就而ハ各港共同様之取計ニ無之候而者不都合ニ付兼而差進置候規則之趣御承知區々不相成様御取計可被成候爲念猶此段申進候也
　庚午正月
　尚以規則中支那人ハ身分之厚薄に寄上中下三等に相分云々と有之右見分方甚紛敷儀も可有之横濱表ニ而は諸事使役之爲め兼而相雇置候支那人有之此者ニ右見込爲附候上勘辨取捨いたし候由ニ付御參考迄爲念申進候也

第十號、長崎縣へ前同斷

第拾壹號、箱館出張開拓使へ前同斷

第拾貳號、大阪府へ前同斷

第拾三號、神奈川縣ヨリ横濱居留支那人取締同國人雇入シ旨通知ノ來翰
〈罫紙〉片面八行「神奈川縣」罫紙
（欄外書き込み）「百九十四號」
（欄外印）「寫濟」
****
卿　印　大丞　印　大録　印　印
大輔　印　從四位　印　府藩縣各港掛
　　權大丞　印
　　少丞　印
　　權少丞　印
（本文）
横濱居留支那人取締向之儀場廣ニ而廻り場所等間遠相成行届兼候間當支那人阿合阿光阿旭（アハアカンアヨク）三人内重立候壹人は月給弐拾五弗外弐人は弐拾弗宛ニ而千八百七十年第三月一日6御雇相成候間此段御達およひ候也
　二月四日　　神奈川縣廳
　　外務省御中

第拾四號、神奈川縣ヨリ前件支那人雇入シ旨通知ノ來翰
　　明治三年二月十三日
〈罫紙〉片面八行「神奈川縣」罫紙
（欄外書き込み）「三百五十一」
（欄外印）「寫濟」
****
卿　印　大丞　印　少丞　印　大録　印
大輔　印　准大丞　印　權少丞　印

權大丞　　印

（本文）

去ル八日英國公使舘おゐて同國公使江寺嶋公御引會之砌當縣取締向之儀云々申立候趣を以御引會振大意御申越承知いたし候右取締向之儀懸念ニ付當支那人三人相増候儀は過日御達申候儀ニて當時取締役支那人六人ニ而晝夜見廻り當方取締役士官之分頭取六人縣兵ゟ申付其外士官之見廻り方都合三十三人ニ而居留地晝夜爲見廻り且山手外國人居留地内江も取締局壱ケ所取建彼我是迄之人數丈は爲相詰山手居留地見廻り候積ニ而右建物専ら手配中ニ有之海上取締之開港規則之儀は中野大參事取調居外國人相雇候積有之候間追而仕法可申遣候右之段御報申進候也

二月十三日　　　　神奈川縣

外務省御中

第拾五號、兵庫縣ヨリ支那人取締向ノ義ニ付伺答ノ來翰

明治三年二月五日

（この文書は原文では第拾三號の前に編入されているが、内容的にみてここに入れる）

（欄外書き込み）「正月廿日」「正月廿日達シ濟」

****

卿　　印　　大丞　　印　　大録　　印

大輔　　　　准大丞　印　　御書箇掛　花押

　　　　　　權大丞　印

　　　　　　少丞　　花押

　　　　　　權少丞　印

（本文）　　（ゴシックは書き込み）

當月五日附之御書狀竝規則案其外相落手逐一披見いたし候就ハ横濱表ニ而取設候條約未濟國人取締之儀ハ舊幕之節各國公使と協議決定いたし候者ニ而**御一新後も右を採用いたし居候儀ニ付**同港限之規則ニも無之且取計振區々相成候而ハ都而不都合**而巳ならす支那人而巳條約未濟國人と可申儀ニハ無之然ルニ別紙之如く支那而巳を窮屈ニ束検いたし候も不公平ニハ有之間敷哉旁以キ**基キ御地於而も右**舊幕之節取設候六ケ條之取締**規則通り御取計別段新規之規則等ハ先御見合可被成尤遺漏之廉又ハ改革をも可加儀も候ハ、各港打合之上都而一様之取計ニいたし候方可然間左様御承知可被成候※**（欄外に付箋「加筆尤横濱にて云々以下一段※印之下へ差加へ將支那人ニツヽキ候方如何」）**將支那人等級之儀ハ**以來是之如く判然見定兼候儀ニ而**○横濱表ニ而ハ**支那人莫太之人數故内探索等之ため或**ハ諸事使役之ため兼而**醇良**之支那人**壹ケ月五十トルラル位ニ而**相雇置右之者ニ前書等級見込をも爲附候上勘辨取捨いたし候由**左も無之而は支那人之出没來歴分り兼申候**是等ハ枚葉之儀ニ付詰り如何様ニ而も上中下相當ニ見分相附け候ヘハ夫ニ而可然候得共御參考之ため此段も申遣候△○也

　　　　　　外務省

兵庫縣御中

（行末△～○部分の加筆）

△尤横濱ニ而右取締規則取設之頃ハ未た兵庫開港之間際ニ而右之頃ハ其地コンシユル承知不致各公使おゐても傳達無之段ハ左様も可有之間今度各國公使へ申達御地コンシユルへ申入ノ運ニ可為致○

第拾五號、兵庫縣ヨリ支那人取締向ノ義ニ付伺答ノ來翰

明治三年二月五日

（欄外書き込み）「弐百壱號」「二月五日到」

（欄外印）「寫濟」

****

卿　　印　　大丞　　印　　大録　　印

大輔　印　　從四位　印

　　　　　　權大丞　印

　　　　　　少丞　　印

　　　　　　權少丞　印

（本文）

支那人取締之儀ニ付伺書差上候處御應答書御報被成下逐一拝見御申越御趣意委細承知仕候付而は横濱表ニ於て舊幕府之節取扱候六ケ條之取締規則通り取計候方可然之旨御示諭之趣ニ随ひ夫々取締規則取設之積御座候何れ規則案文出來候ハヽ尚亦相伺可申候右御受旁如此御座候已上

二月朔日　　兵庫縣　印

外務省御中

第拾六號、新潟局ヨリ支那人取締向ノ義ニ回答ノ來翰

明治三年二月五日

附屬：英領事ヨリ新潟知參事充ノ書翰　弐通

（欄外書き込み）「午二月十三日來ル」

（欄外印）「寫濟」

****

卿　　印　大丞

大輔　　印　從四位　　印

權大丞　　印

少丞　　印

權少丞　　印

（付箋）「是は御書翰掛引合中之申入ニ付同書翰之後へ附置急用之節不取失様しまひ可置事」

（本文）

以書翰致啓上候然は當港寄寓之支那人取締り向之義横濱通りニ施行いたし度と存し去ル卯年於御地各公使ゟ協議確定相成候規則之第四條ニ基き支那人竝結盟未濟國之人民一様ニ處置可致旨各岡士江相掛合候之處右取結之廉ニ異存は無之候得共當港之規則を改而御地おゐて公使御談判之上公告相成候方可然旨申聞返書さし出候間則譯文弐通差進申候御一読之上各公使江御掛合被下治定之義被御申聞候様いたし度此段得御意候也

二月五日　　新潟局

外務省御中

（封書表）「公使へ御達し之後それを添て返事可遣事」

++++++++++++++++++++

（欄外印）「寫濟」「別紙」

（本文）

於新潟一千八百七十年第三月五日

貌利太尼亞

岡士館

以書翰致啓上候然は支那人及條約未濟國の臣民取扱の儀に付先月廿五日の貴翰落手仕候右は條約未濟の國の臣民を處置する事ニ横濱のために別段に取設ける約定を其儘此地江引用ゆへき段御申越相成候懸考ニも横濱の約定同様の事を此地江引用ひ相成候ハ差支有之間敷とは存候得共當地のために横濱の約定の通りに而已ニ取極むる事ハ私に於て行届兼申候條約未濟の臣民ハ當地にハ未た居留あるかあらぬかにて候へは急速取極不申候とも甚不都合ニも有之間敷候間愚考には此事件は江戸江御申越相成候而外務卿と外國ミニストルとの間に於て御取極相成候ハヽ貴方のために宜しかるへきと存候右は各國ミニストルに於ても該開港場何様の次第に御取極めの御思召ニは疑惑有之間敷と存候拝具謹言

ゼー・ツループ

三條西（公允）知縣事閣下

本局大參事閣下

++++++++++++++++++++

（欄外印）「寫濟」「別紙」

（本文）

於新潟一千八百七十年第二月二十六日

支那人の儀に付昨日貴翰落手承知仕候然は御申越之規則第四ケ條は横濱のた

めに而已設けられたる故當地於てハ取行れ申間敷候乍併此事件に關係ある該子と共に勘考せんため猶御貴慮御申越被下度此段御承知可被下候恐惶謹言

北日耳曼列邦
コンシユル
エデ、ライスネル

三条西三位閣下

第拾七號、新潟裁判所ヨリ支那人竝條約未濟國人處置振回答ノ來翰但往翰脱ス

明治三年二月日欠

〈罫紙〉片面七行「新潟縣」罫紙
(欄外書き込み)「七百番」「三年裁判來」「?可取調事」
(欄外印)「寫濟」

****

卿　印　大輔
大丞　印　從四位　印　少丞　權少丞　印
大録　印　少録　府藩縣各港掛

(本文)

以書狀致啓上候然は二月朔日出御地出張所ゟ之御用狀到來披見之處去月十八日ゟ追々同所江御達相成候書類一覧いたし取束ね左ニ御報申進候

一、(付箋「此項左出ノ關係」)支那人竝結盟未濟國之人民處置之儀ニ付御添心之趣委曲了承右は横濱規則ニ基き取調各岡士江相達し候處御地おゐて公使江口述之上公告有之度旨申立候間其段過便申進置候

一、羽州酒田海岸漂着之英人ヲーシンクイン乘組之者一同無滯御地着一憩之上横濱江歸港之旨致承知候右護送之別手組其外とも去ル十二日無恙歸港いたし候滯府中は何廉御世話被成下候儀と多謝いたし候

一、佐州夷港取扱向之儀ニ付外國人ゟ申立之趣も有之同所規則可申進旨致承知候則別紙一綴差進申候一躰昨秋中繫船場へ之ため當地ゟ官員出張貨納屋改所其外取補理ひ取扱向略打合候得は同縣江可引渡見込之處其後知縣事新五郎來着佐州役員之儀は外國接待不案内ニ付當分新潟ゟ出張いたし外務引受取扱呉候樣水野外務少丞江談し有之趣ニ而今日迄連綿役輩出張致置候得共管轄外江差跨り取扱之不便は勿論旅金其外之官費不少加之餘分之役員満つ置不申候而は不相叶旁地方官ニ引渡候方當全之儀と存候間近々引渡之儀及掛合と存候此段御含ニ申進置候事尤同縣之事ニ付自然民部省江御引合序も有之候ハヽ右次第御演述被成置度御願申上候事

一、外國人申立之正金楮幣引換之儀爲念大蔵省江御問合被下右答書添御達相成落手承知いたし候向後引換之儀申立候ハヽ御答之通取計可申候事

一、正月十五日寺嶋大輔殿英公使と御對話ケ條之内贋金一洗之方法民部省江可申立旨承知いたし候右は昨秋花房虎太郎出港外國人所持之贋金一箒いたし亦來外國人持出之金銀ハ改査因(對?)之上相渡し置尚春來通商會社來住ニ付別紙之通り各岡士江相達し改査爲致候譯ニ而手を盡し置候儀に有之尤尚通商司見込をも承民部省江可申立候事

一、昨年開港ゟ十二月迄外國米輸入之儀は一切無之候事

一、舊臘中御頼申進置候西洋紙ペン其外折々御買上今便別手組江托し御差立被下慥ニ受取申候右買集め方品々御配慮に預り忝次第存候則代價金員爲替手形を以さし進候間改之上御落手被下度候事右回答方々得御意候也

二月十五日

新潟裁判所

外務省御中

(下札)「書面ヘン西洋紙其外買上代價〇　〇為替手形ニ而金百二十両差越し候府下先出納方江預ケ置追而夫々拂ひ方いたし候積り」

第拾八號、澳地利公使へ支那人其外條約未濟國人取締向各港同一ニ取締向報知ノ往翰

明治三年二月十七日

〈罫紙〉片面八行「外務省」罫紙
(欄外書き込み)「三年各國往」「百二十番二月十七日達ス」

＊（編者付言）「澳地利ヘノ往束ノミ本書ノ關係」

****

卿　印　大丞　印　少丞　印　大録　印
大輔　印　准大丞　印　權少丞　印　御書翰掛　印
權大丞　印

（本文）　（ゴシックは書き込み）

以手紙致啓上候然は支那人其外條約未濟國人取締之儀は**卯年十月西洋千八百六十七年第十月二嘗ル　英獨乙伊太利は閣下　○佛國米國は閣下之御先職澳地利西班牙之各國公使と**　協議決定し一新以來も其儘横濱ニて連綿取行居候儀ニ有之就而は各港於而も同樣之取計ニ無之而は不都合ニ付横濱規則之通區々不相成樣更ニ各港江相達**取行可申と存**候尤各國人中之引請なき支那人は總て日本政府之管轄とし何れも戸籍入免狀相渡右免狀料取立可申候間此段我國各港在留其國コンシユル江も兼而御布令有之候樣致度右可得御意如斯御座候以上

明治三年午二月一五日寫　大輔
卿

英佛米獨乙伊澳西班
公使姓名閣下

前同文書翰幕府之節其國ミニストルレシデント**ポルスフルック閣下**と協議決定
以下同文

外務大少丞

荷蘭岡士
ファンデルタック貴下

外務大少丞

伊ロヘッキ貴下

（英原文略）

第拾九號、澳地利公使ヨリ前件取締向云々承諾ノ來翰

明治三年三月廿三日

〈罫紙〉片面八行「外務省」罫紙
（欄外書き込み）「二百七十三番」

****

卿　印　大輔
大丞　印　准大丞
少丞　印　權少丞　印
大録　印　御書翰掛

（本文）

於支那上海我三月十二日
第四月十二日

以手紙致啓上候然は西洋千八百六十七年三月十八日附之御書翰致落手候閣下支那其外條約未濟之國人民取締向ニ付而云々御申越竝ニ是迄横濱於て相用候規則他之開港場ニ於而も御用ヒ被成度趣致承知候右之段該開港場澳地利竝□洪利岡士江申達置候此段可得御意如此御座候以上

澳地利兼□（ハンガリー？）洪利公使
ヘンリーガリッセ

澤從三位清原宣嘉
寺嶋從四位藤原宗則閣下

第貳拾號、英公使舘於テ大輔英公使へ支那人取締向ノ應接記

明治三年二月卅日

（欄外書き込み）「第弐拾號」「校合済」

＊（『編者付言』）「此原書『横濱山手貳百三十番地於テ公園創設竝同

園地横濱婦女弄鞠社へ貸渡一件』ニ編入ス」

****

（本文）

午二月晦日於英公使舘寺嶋外務大輔英國公使ハルリーハークス江應接記之内

支那人之儀ニ付御來示之云々如何之事ニ候哉

支那人取締之儀は支那人居所之各岡士江取締向申遣候處其公使より右云々之達無之候而は取締向は不致候由ニ候

横濱ニ而はヘンソン儀定約未濟之者之取締竝道造地稅取集方取締役人を支配し酒之密賣を制し右五ケ條を取扱候事ニ有之候

右は横濱而已之事ニ付各港も同樣取締之者差置度既ニ長崎ニは支那人凡三百五十人餘兵庫ニも多人數在留有之就而は取締向相立置不申候は而は若臨時之事あらは入用之掛り候而已ならす不都合を相醸し既ニ兵庫ニ於て支那人某所ニ竊盜致し夫レ等之處置は如何施行致候事可然哉右等御相談ニ及候

支那人取締之儀は西洋人雇置候者ニ而も日本法ニて處し可被成候

第貳拾壹號、新潟縣ヨリ支那人取締方各國公使ノ往復回送スヘキ旨ノ來翰

明治三年四月十五日

附屬：〇取締役人ヘンソン糺書　五通

（罫紙）片面七行「新潟縣」罫紙

（欄外書き込み）「三十五號」「□歩可取調事」

****

卿　印　大輔　印

大丞　印　從四位　印

少丞　印　權少丞　印

大録　印　少録　印

（本文）

以書狀致啓上候然は三月廿五日附之御書狀竝四月二日附之御書狀去ル十一日到來致披見候

一、伊太利亞公使歸國ニ付參朝拜禮濟且新公使渡來迄之間横濱岡士ロベッキ事公使勤向相心得候旨致承知候

一、當縣大屬谷津春三儀其御地御用濟ニ付歸港御申渡之趣承知いたし候同人事道中無滯去ル十一日歸縣いたし候出京中は諸事御添心被下候段同人演述之趣承知いたし忝存候且民部省江之御掛合向寫別紙被遣之落手彼是御手數之御儀奉謝候

一、（欄外書き込み「此ヨリ以下關係アルヲ以テ茲ニ編入ス」）

各港在留支那人取締之儀ニ付區々不相成樣各國公使江御達相成候樣承知いたし候就而は右往答書翰寫御達有之候樣いたし度得御意候事

右は御答旁得御意度如此候也

四月十五日　新潟縣

外務省御中

追而當港輸出入品稅銀取調帳弐冊差遣申候

（欄外追記）

一、到來魯岡士より書簡有之を同國公使江届方相頼候間差進申候御達方御取計有之度候也

++++++++++++++++++

附屬：〇取締役人ヘンソン糺書　五通

（ゴシックは本文中の小文字で書れた割注）

//////////////////

①

（欄外印）「校合濟」

（本文）

午六月廿二日取締ベンソン*b*糺書

澳

梁太利人アスカベテーク奇密之儀申立候趣左之通

ヒ

私今日罷出申上候儀は極秘密之儀ニ而外ニ不洩樣いたし度候居留地内ニ支那人博奕場處々に有之右ニ付セルシヤント**外國人取締之事**支配人之廻り方へ賄

賂いたし候趣見聞いたし候ニ付此段申上候私は支那の馬港にて三ケ年程ホーリース**取締の事**相勤居支那人の言語能く心得居候右ニ付横濱江罷越是迄支那人の用向等相達し居夫ゆへ支那證書等の翻譯ものいたし居候横濱江罷越候は凡十一ケ月程ニ相成申候

支那人博奕之事ニ付何様之事を見聞候哉

百七拾弐番にて支那人アロンと申者博奕場を預り居其者申候ニは一七日毎又は一ケ月毎に外國廻り方セルシヤントニ弐拾弗程賄賂相拂申候

又は洋服を着し候支那取締江六拾弗右を七日ツゝに割合相拂候趣此賄賂の咄しは百七拾八番支那人アカンと申もの申聞候百四拾八番にては博奕部屋有之數人江貸遣し有之壱ケ月六拾弗も支那人取締に相拂弐拾弗はセルシヤント**外國人取締之事**江相拂候趣此儀もアカン申聞候

百四拾七番此舘にも博奕有之月々百弗ツゝ賄賂相拂内**弐拾五弗セルシヤント七拾五弗支那人取締**江相拂候趣此儀はトンカハマウロンと申支那人〃承り候此外博奕場所々に有之候得共私は心得不申候ニ付不申上候

三ケ月已然セルシヤント私住宅百四拾五番江罷越若哉其許竝其許之朋友ニ而博奕場被取設候ハゝ自分江金子相拂候様致候ハゝ假令外セルシヤント其場に參り候とも追拂ひ可申猶面倒なる儀申聞候ハゝコンシユル所江罷越へく云々申入可然何れにも懸念の事は無之候若も自分江其許が拂方可致筋は支那の通司**ロンチンをいふ**支那のホリース江は必ロ外有之間敷候凡一ケ月ニ壱ト場所〃拂方いたし候分左之通

支那人通辨壱人江　百弗
外國セルシヤント江　百弗
支那ホリース壱人江　百弗

凡壱ケ月ニ三百弗餘壱場所〃相拂候よし其餘りは支那人竝外國廻り方に而配分す今月四日ドンカマウロンの博奕場江私罷越候處其節セルシヤント同所内談部屋に罷在私參り候節裏口〃同人は罷歸リ其跡にて支那人江承り候處一ケ月の運上弐拾五弗相拂候由申聞候其時弐拾五弗は何のために相拂候哉と相尋候處博奕場の免許と相答候

右之件ニは博奕場而已ニ而被承候哉

ホリース取締所にては不承候哉

右之儀は百四拾五番私部屋ニ而外國人セルシヤントより承り候其節支那人其場ニも居合申候

②

（欄外印）「校合濟」

（本文）

同日

支那人
トンカヲマウロン
同
アキー
此者通司

私は百四拾七番ニ住居罷在支那の小見世を出し居候此一週日以前に博奕いたし四五日以前に支那の廻り方江弐拾五弗相拂支那の廻り方の頭ヤーント申もの有之夫に一週日ニ而七弗も相拂申候今月十四日に弐拾弗ロンチン江相拂申候夫故ロンチンの申候には弐拾弗も拙者に拂ふならば其許の身分に危き事有之候ハゝ何時に而も内通いたさすへくと申聞候其外には一切金を拂ひし事無之候私仲間にリーイチーと申者有之候

③

（欄外印）「校合濟」

（本文）

午六月廿三日

支那人博奕の糺書

百七拾弐番
支那人
アヒユ

私儀は百七拾弐番ニ住居いたしアヒユと申者ニ御座候
博奕場を取建候哉
私儀は存不申候

有躰に可申立候
百七拾弐番ニ博奕場有之候を見受申候

今有躰に申立候ハヽ博奕之罪も軽く可相成候誰れに歟金子を相拂候儀有之哉
私儀誰ニも金を拂ひ候儀無之候

猶可糺儀有之候間控居可申候

④
（本文）

百四拾八番
支那人
アカン

私儀百四拾八番ニ住居いたしアカンと申者ニ御座候

博奕之儀ニ付有躰ニ可申立候百四拾八番に博奕場取建有之候哉
博奕場有之候

其方いつ頃博奕場預り幾ケ所之部屋預り居候哉
アカンと申もの博奕之仲間ニ御座候

仲間に入何ケ月相過候哉
凡六ケ月ニ相成申候

博奕場之免許を得る爲誰に金子を拂ひ候哉
一週毎に支配人之廻り方阿安と申者に三弗も相拂ひ一ケ月毎にホリース之英人サアーセン江一ト部屋毎ニ三弗ツヽ相拂ひ四部屋有之候間一ケ月拾弐弗相拂候儀ニ御座候

百四拾八番ニ而部屋を預り候者は名前何と申候哉
誰部屋を預り候哉存不申候得とも一ト部屋毎ニ頭分有之チヤウトンと申ものニ候

今一ト部屋誰預り候哉
サイヘンと申もの預り居候

今一ト部屋は誰
アワイと申者預り居候

今一ト部屋は誰
アワンと申者預り居候

右等之ものホリース江金を拂候を見受候儀有之哉
ホリース英人サワーゼン竝阿安江相拂候

右兩人之外江も金を相拂候を見受候哉
右之外ニは見受候儀無之候

猶承る右サワーゼン竝阿安之外江も金を相拂候を見受候哉
私竝前之ものとも**ゟ四部屋の頭をいふ**サワーゼン阿安之外江も相拂候は

花匠之衣服を着候ホリース江相拂候は一ト部屋毎に弐弗ツヽ相拂四部屋ニ而八弗を外國人之廻り方花匠之衣服を着し候もの江相拂申候

名前は承知ニ候哉
一向存不申候右之外支那人通司ロンチン江相拂申候

外廳に詰居候支那人ニ候哉
左様ニ御座候

何程相拂候哉
都合四部屋ゟ一ケ月拾五弗ツヽ相拂申候右は私より直ニ相渡不申チヤウトンと申もの、手を經て相渡申候尤チヤウトンよりロンチン江金を相渡候を見受申候

アヒユゟ金を拂ひ候を見受候哉
アヒユと申者英サワゼン竝阿安梁兆勝三人江金子を拂候を見受申候拂候高は一ケ月六拾弗に有之候

如何してアヒユゟ金を拂ひ候を見受候哉
私之朋友より承知いたし候

朋友之名前を何と申候哉
朋友一紜申居候

一紜と申候而は相分り兼候其名前承知いたし度候
チアウトンと申者より承知いたし候

チアウトンと申外ニも同人之名有之候哉
コンチヨンと申居候

博奕場江は日本人歐羅巴人も罷越候哉
支那人而已ニ有之候

⑤
（欄外印）「校合濟」
（本文）
午六月廿七日ヘンソン吟味書

百四拾七番
支那人
サイヘン

一、其方何業をいたし居哉
一、博奕をいたし候

一、右ニ付ホリースの誰江歟金を遣し候儀有之哉
一、仲間マロン江遣し同人より廻り方之ものへ相渡候

一、其方右マロンゟ廻り方之もの江金を遣し候を見受け候哉
一、左様ニ御座候マロンより相渡候を見受申候外ニアヒユ江も相渡し同人よりロンチン江相拂申候

一、相拂候は何日頃ニ候哉
一、一周日計り以前ニ有之候

一、何程之高を拂ひ候哉
一、私より廻り方江賄賂之ためにマロン江相拂候高は三拾弐弗半ニ候

一、其方仲間は有之候哉
一、マロンと申もの有之候

一、其外ニは仲間は無之哉
一、仲間貳人より外無之候

一、アツイ、アハン、チウトン何れに居候哉
一、存不申尤アハンニ昨日百四拾八番ニ而逢申候

一、其方博奕部屋を預り候哉
一、マロンと私兩人ニ而預り居り候

一、博奕場江日本人參り候哉
一、決而不參候

⑥

（欄外印）「校合濟」

（本文）

百四拾七番
支那人
マウロン

一、其方何業をいたす哉
一、料理見世竝博奕いたし博奕部屋を持居候仲間をサイヘンと申候

一、博奕の免許を受るためニ誰江歟金を拂ひ候哉
一、相拂申候

一、誰江相拂ひ候哉
一、支那廻り方江七弗英サーゼン江拾弐弗半相拂候

一、其他相拂候哉
一、アヒウ江拾五弗拂ふ其他ニ拂候事決而無之アヒウ江拾五弗拂ひ候は通詞之ロンチン江相拂候ためニ候

一、何頃相拂ひ候哉
一、凡一周日計り以前ニ有之候

一、其方ロンチン江直ニ相拂ふ事有之哉
一、直ニ相拂ひ候事無之候

一、過日之申立ニは弐拾弗ロンチン江拂ひ候と申只今拾五弗拂候とは如何
一、左様之儀申立候儀無之通辨之違ひと被存候

一、過日申立候ロンチンより内通之云々申聞候趣は如何
承る
一、アヒウ㐂兼而ロンチン㐂承り不申候且弐拾弗ロンチン江相拂候事決而無之拾五弗相拂申候

一、アヒウは何れニ居哉
一、百七拾弐番ニ居凡一周計り前面會いたし候

⑦

百四拾八番
支那人
アカン

一、何をいたし居哉
一、博奕部屋を持居候

一、仲間有之哉
一、アハンと申仲間有之候

一、博奕之免許を受るため金を拂候儀有之哉
一、支那之廻り方アーンと申もの江一周日毎に三弗ツヽ、英廻り方之頭江一ケ月拾弐弗英廻り方江八弗拂ふ尤自分之拂ひ候は英廻り方之内江相拂ふ
一、其外にも誰江歟金を相拂候哉
一、其他ニは決而相拂候事無之
一、其金は皆何頃拂候哉
一、一ケ月以前ニ拂ふ右金不残百四拾八番ニ居候チヤウトン江拂ひ同人より夫々廻り方江拂申候
一、其方チヤウトンゟ廻り方江拂候を見受たる哉
一、一切見受候事無之
一、不見受してチヤウトンゟ金を拂ふを知居哉且最前直ニ相拂候と申立只今直ニ不相拂趣申立候は如何之儀ニ候哉
一、私は決而仲間之ものゟ金を相拂候を見受候事無之候
一、此程は廻り方江相拂候を見受候旨申立候處今日は見受候儀無之旨申立候は如何之心得ニ候哉
一、博奕之仲間ゟ廻り方之もの江渡候事見受候儀決而無之
一、有躰ニ申立へく左も無之候ハヽ、幾日ニ而も入牢申付候間有躰ニ可申立此程申立候とは大ニ相違いたし候一々有躰ニ申立へし
一、只今申立候通り之儀ニ御座候

第貳拾貳號、神奈川縣へ支那人阿片烟取締方照會ノ往翰

明治三年七月三日

〈罫紙〉片面八行「外務省」罫紙

（欄外書き込み）「七月三日達ス」
（欄外印）「寫濟」

****

卿　大丞　大録　印
大輔　權大丞　少録
少丞　印
權少丞

（本文）

神奈川縣御中　外務省

先日阿片烟取締方相立候節支配人共吟味之手續等ニ付御雇梁兆勝頗骨折候由然ルニ同人は其本國人を罪科ニ引入候儀故諸方ゟ怨敵と相成候由村々支那人之気質嫉妬深キものも有之候間其甚シキニ至候而は暗襲等之患無之とも難申右ニ付而は當人之用心は勿論御雇中異変有之而は政府之御威光ニも拘り候間保護方御心附有之様存候
一、支那人取締之儀ニ付而は諸事嚴重ニ可心附は勿論之事ニ候得共阿片等之事ゟ兎角物情不穩此先徒黨一致之兆有之由彌左様相成而は詰り外國人之儀御處置方ニ手數可相掛候間篤と詮議を遂け假ニも驟合徒黨ケ間敷躰相見候ハヽ速ニ鎮静いたし其僻習之起らさる様御心附可被成候
一、支那人竝西洋人博奕會所躰之もの取建日々集會いたし居候場所有之候由右は住之場所ニ而其所爲如何之躰ニ候也御探索之上御申越可被成候右件々御掛合および候也

午七月三日

第貳拾三號、神奈川縣ヨリ支那人竝條約未濟國人盜其外惡事セシ際處置振書類囘送ノ來翰

明治三年七月廿六日

〈罫紙〉片面八行「神奈川縣」罫紙
（欄外印）「寫濟」「貿易訴訟府藩縣掛」
（本文）

支那人竝條約未濟國人盜其外惡事いたし候節御仕置取計方別紙之通刑部省江相伺候間爲御心得書類差進此段申入候也

庚午七月廿六日　神奈川縣

外務省御中

卿　印　大輔　印　議判　印　辨理　印

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

附屬〇神奈川縣ヨリ伺書

〈罫紙〉片面八行「神奈川縣」罫紙

（欄外書き込み）「刑部省江之伺書寫」

（欄外印）「別紙」「寫濟」

（本文）

横濱表在留支那人竝條約未濟國人盜其外惡事いたし候節御仕置取計方伺書

支那人竝條約未濟國之もの當地在留中盜其外惡事有之候節差押吟味仕置等取計方之儀は西洋千八百六拾七年第十一月中舊政府と外國公使と之間ニ取結有之候居留地取締約書中第四ケ條別紙之趣意ニ基キ右吟味之節各國岡士爲立會罪狀相糺御國律ニ見合死刑已上ニ見込候ものハ御仕置之儀御國人同樣伺之上取計死刑已下之分も御國人同樣之律を以手限ニて御咎等申付尤難決分は其時々相伺候積ニ有之右ニて可然哉條約未濟國之もの御仕置等申付方兼而之伺濟無之候間相伺御外國關係之儀ニ付外務省御合議之上至急御差圖有之候樣致度此段奉伺候以上

明治三庚午年七月廿六日　神奈川縣

井關權知事印

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

附屬〇各國公使ト取結セシ居留地約定書

〈罫紙〉片面八行「神奈川縣」罫紙

（書き込み）「千八百六十七年第十一月中英外三ケ國公使と舊幕府閣老と取結候居留地約定書寫」

（欄外印）「別紙」「寫濟」

（本文）

第四神奈川縣ノ知事ハ前條ニ言ヘル取締役ノ勸言補助竝ニ又外國コンシユル等ヨリ得ルヘキ勸言等ヲ以テ事ヲ執リツヽ前ニ言ヘル居留地即チ神奈川ノ港内ニ居住ノ支那人其他條約未濟國ノ人民等ニ刑法、民法ノ二ツヲ施行スヘシ

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

附屬〇同斷義譯

〈罫紙〉片面八行「神奈川縣」罫紙

（欄外印）「別紙」「寫濟」

（本文）

前同斷

義譯

第四條神奈川縣知事（但シ知事ハ前條ニ言ヘル取締役ノ勸言及ヒ補助竝ニ又外國コンシユル等ヨリ得ルヘキ勸言等ヲ以テ事ヲ執ル）ハ前條ニ言ヘル居留地即チ神奈川港内ニ居住ノ支那人其他條約未濟國ノ人民等ニ刑法、民法ノ二ツヲ施行スヘシ

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

〈附屬〇同斷直譯〉

〈罫紙〉片面八行「神奈川縣」罫紙

（欄外印）「別紙」「寫濟」

（本文）

前同斷

直譯

第四前條ニ言ヘル取締役ノ勸言及ヒ補助竝ニ又外國コンシユル等ヨリ得ルヘキ勸言等ヲ以テ事ヲ執ル處ノ神奈川ノ「ゴーフルノル」ハ前ニ言ヘル居留地ノ内即チ神奈川港ノ内ニ居住スル支那人其他條約未濟國ノ人民等ニ刑法、民法ノ二ツヲ施行スヘシ

第貳拾四號、刑部省ヨリ前件別冊貳冊回送見込問合ノ來翰但別冊脱ス

明治三年七月廿八日

（付箋）「神奈川ハ此日迄ニ而可然外各港ハ左樣とハ參り兼候旨返書可遣事」
〈罫紙〉片面八行「刑部省」罫紙
（欄外印）「校合濟」
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
卿　印　大輔　議判　印　辨理　印
（本文）
支那人竝條約未濟國之もの神奈川港在留中盜其外惡事有之候節仕置等取計方之儀ニ付神奈川縣井關權知事ゟ伺出候ニ付御省御見込之儀承知致度候間別冊二通御廻し申入候早速御回答有之度候也

庚午七月廿八日　刑部省

外務省御中

尚以別冊二通は本紙ニ付御回答之節御返被下有之度候也

（末尾加筆）
右回答八月五日達

第貳拾五號、刑部省へ前件神奈川權知事伺ノ通リ異存ナキ旨回答ノ往翰

明治三年八月五日

〈罫紙〉片面八行「刑部省」罫紙
（本文）

刑部省御中　外務省

神奈川縣井關權知事ゟ伺出候條約未濟國人惡事いたし候節取計處置振之儀當省見込御問合之處右は井關權知事伺之通ニ而可然樣存候間別紙相添御回答およひ候也

庚午八月五日

（『編者付言』）「別紙ハ三年七月廿六日神奈川縣ノ來書中ニ了前出ニ付茲ニ略ス」

第貳拾六號、神奈川縣へ雇入支那人梁兆外壹人取締方見込問合ノ往翰

明治三年七月廿五日

〈罫紙〉片面八行「外務省」罫紙
（欄外書き込み）「達濟」「七月廿五日」
（欄外印）「校合濟」「貿易訴訟府藩縣掛」
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
卿　印　大輔　議判　印　辨理
（本文）

神奈川縣御中　外務省

阿片煙取締方相立候節支那人共吟味之手續等ニ付御雇梁兆勝骨折候由同人ハ其本國人罪科ニ引入候儀故怨敵と相成暗襲等之患も難計候ニ付云々申遣候御返書去十九日到來披閲いたし候處右書中博奕いたし候支那人竝ニ賄賂受ケ候梁兆勝竝取締西洋人之處置ハ如何と御見込ニ可有之哉承知いたし度早々御申越し有之度此段申遣候也

七月廿五日

第貳拾七號、神奈川縣ヨリ前件支那人梁兆取締方云々回答ノ來翰但往翰脱ス

明治三年八月十八日

〈罫紙〉片面八行「神奈川縣」罫紙
（欄外書き込み）「二百壱號」
（欄外印）「貿易訴訟府藩縣掛」「校合濟」
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
卿　印　大輔　印　議判　印　辨理　印
（本文）

博奕いたし候支那人御雇梁兆勝竝取締西洋人賄賂受候處置は如何之見込ニ候哉御問合之趣致承知右は博奕いたし候支那人再應吟味いたし候處梁兆勝等へ賄賂差出候は朋友之支那人より承りおよひ候迄之儀ニ而其朋友之支那人探索いたし候所何れへか逃去行衛不相知然る上ハ確證も無之罰候譯ニも相成兼候間風聞不宜廉を以梁兆勝初督責いたし向後正直ニ相勤候樣ベンソンゟ嚴敷爲申談候儀ニ有之候

右御報如斯候也

午八月十八日　　神奈川縣

外務省御中

第貳拾八號、神奈川縣ヨリ支那人犯罪ノ者處置振通知ノ來翰

明治三年八月廿五日

附屬○支那人アシン外壹人所罰書

〈罫紙〉片面八行「神奈川縣」罫紙

（欄外書き込み）「二百四十九號」「八月廿五日」

（欄外印）「貿易訴訟府藩縣掛」「寫濟」

（付箋）「柳原殿へ書送と承此事も加書すへし香港へ送る入費ハ何樣之處ゟ出候哉承り可遣候事」

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

卿　印　大輔　印　議判　印　辨理　印

（本文）

當縣居留支那人之内小罪を犯し候もの一二ケ月入牢之上船便之節香港等江差送り候儀之處再度渡來要業相働候ものも有之哉之趣ニ付右罪人入牢之上全體寫眞ニ取香港江向ケ追放いたし右寫眞は犯罪之始末相記各港江相達置再來候ハヽ當罰を加へ香港江追放候積り取極此程既ニ犯罪之支那人兩人有之寫眞ニ取各港江相達候依之支那人罪狀書相添此段申進置候也

午八月廿五日　　神奈川縣

外務省御中

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

附屬○支那人アシン外壹人所罰書

〈罫紙〉片面八行「神奈川縣」罫紙

（欄外印）「別紙」「寫濟」

（本文）

支那人アシン

右は橫濱元町壹丁目八百屋渡世伊三郎方江アシン罷越茄子九百文買取錢箱江入置候金札四兩三朱盜取候始末不埒ニ付一ケ月入牢之上八月朔日香港江向ケ追放す

支那人アジー

右之もの第百三拾六番外國人住宅おゐて錠竝鉄器盜取候始末不埒ニ付一ケ月入牢之上八月朔日香港江向ケ追放す

第貳拾九號、神奈川縣へ前件支那香港等へ指送リノ際入費出方問合ノ往翰

明治三年八月廿八日

〈罫紙〉片面八行「外務省」罫紙

（欄外書き込み）「八月廿八」「二百六十弐號」

（欄外印）「寫濟」「貿易訴訟府藩縣掛」

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

卿　印　大輔　印　議判　印　辨理　印

（本文）

神奈川縣御中　　外務省

午八月廿八日達濟

御縣居留之支那人之内小罪を犯し候もの一二ケ月入牢之上船便之節香港等江差送り候儀ニ付云々御申越之趣承知いたし候右送り遣し候入費出方之儀ハ如何樣之處ゟ出哉且送り狀ニ而も御遣し相成候事ニ候哉委細承知いたし度否御取調候申越し有之度此段申入候也

庚午八月

第三拾號、神奈川縣ヨリ前件入費云々回答ノ來翰

明治三年十月二日

〈罫紙〉片面八行「神奈川縣」罫紙
（欄外書き込み）「五百四十八號」「十月二日」
（欄外印）「貿易訴訟府藩縣掛」

****

卿　印　大輔　印　議判　印　辨理　印

（本文）

當縣居留支那人之内小罪を犯し候もの入牢之上香港江差送候入費出方竝送方手續之儀御問合之趣承知いたし候右は犯罪之支那人差戻し候入費之儀當縣出張之出納司ゟ受取遣ひ拂候儀ニ有之候尤條約未濟國人之裁判料竝支那人ゟ取立候過料銀有之候へとも右之内ゟ遣ひ拂候譯ニは無之右銀は出納司江相納刑法入費別段受取候儀ニ有之候且當人江篤と申諭し飛脚船々主請合之證書取候而已ニて別段送り狀ハ不相渡旅客同樣ニ爲乘組差戻し候儀ニ有之候右御報如此候也

庚午十月二日　神奈川縣

外務省御中

第三拾壹號、神奈川縣ヨリ支那人犯罪ノ際取扱規則取拾ヲ乞フ旨ノ書翰

明治三年九月三日

附屬〇神奈川縣知事ヨリ英佛領事ヘノ書翰
〇英領事ヨリ神奈川縣知事ヘノ返書
〇佛領事ヨリ神奈川縣知事ヘノ返書
〇各國領事ヨリノ來翰
〇省評

〈罫紙〉片面八行「神奈川縣」罫紙
（欄外書き込み）「三百二十弐號」
（欄外印）「貿易訴訟府藩縣掛」

****

卿　印　大輔　印　議判　印　辨理　印

（本文）

千八百六十七年第十月居留地取締之規則書第四ケ條ニ有之候條約未濟國之人民竝支那人民罪科有之神奈川縣廳おゐて吟味之節各國岡士立會候儀死罪以上は格別左も無之小罪を犯し候未濟國人支那人等は各岡士江不申入吟味裁判いたし可然云々之趣別紙之通り各岡士ゟ書翰を以申立至極便宜有之候處英佛岡士名前無之候間右之趣を以及掛合候處不同意之趣別紙之通り申越候右は第四ケ條規則ニ基候ハヽ支那人共すり又は持逃小盜等いたし候儀日々兩三度も有之右等之儀を其都度各岡士江申入立會吟味いたし候儀ニ立至り候而は雙方之手數而已相掛り岡士おゐても煩敷不益之儀ニ可有之殊ニ小罪之もの裁斷捗取方も不宜何分事實ニ難行候間前書各岡士申立之趣ニ取直し度其段更各公使江御談判第四ケ條規則御取控相成候樣いたし度依之往復書翰寫添此段及御掛合候也

午九月三日　神奈川縣

外務省御中

++++++++++++++++++++

附屬〇神奈川縣知事ヨリ英佛領事ヘノ書翰
〈罫紙〉片面八行「神奈川縣」罫紙
（欄外印）「別紙」「寫濟」
（本文）

以手紙致啓達候然は千八百七十年第十月之居留取締規則書第四ケ條ニ有之支那竝條約未濟國之人民罪科有之神奈川縣尹吟味之節各國御同僚御立會之儀死刑以上は格別左も無之小罪を犯し候吟味裁斷いたし候儀御同僚御立會無之可然竝外國人ニ被召仕候支那人未濟國人は死刑以下にても廉立候吟味之節は其雇主之岡士而已御立會申入可然趣外御同僚御同意ニ而御掛合有之候右は貴下前書之趣御同意之有無致承知度其未外務省江申立候儀有之候否早々承知いたし度右之趣得御意候以上

午七月廿八日　　櫻田大參縣事
　　中野大參縣事
　　井關權知縣事

英佛岡士閣下

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

○英領事ヨリ神奈川縣知事ヘノ返書
〈罫紙〉片面八行「神奈川縣」罫紙
（欄外印）「寫濟」
（本文）

譯文

第七拾弐號

以手紙致啓上候然は去月廿八日之御書狀落手いたし候條約未濟國之人民縣廳ニおゐて御吟味之節重罪之事件耳各國岡士立會可申竝ニ外國人召使之條約未濟國人は其傭主之岡士而已立會可然存候趣外同僚より申進候ニ付拙者も外同僚と同意ニ有之哉之旨御申越然ル處拙者之存意は右反對ニ而惣而相手方として條約未濟國人御吟味可被成事件有之節は其事件之輕重ニ不拘是迄之通前以而御報知被成候樣いたし度此段貴答旁得御意候以上

庚午八月廿三日　　英國岡士ロッセルロベルトリン

井關權知縣事
中野大參縣事　貴下
櫻田大參縣事

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

○佛領事ヨリ神奈川縣知事ヘノ返書
〈罫紙〉片面八行「神奈川縣」罫紙
（欄外印）「別紙」「寫濟」
（本文）

當八月廿四日附御書翰落手千八百六十七年中會議之上取極たる第四ケ條目御改革之儀御問合之趣意得と懇檢仕候何分當御改革之事件伏命仕兼候間就てハ貴下是迄之通御保全有之度拙者於而ハ良答之儀と奉存候謹言

千八百七十年第九月二日　　佛國コンシユル　ヲスカルコロー

神奈川縣全權　井關權知事貴下

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

○各國領事ヨリノ來翰
〈罫紙〉片面八行「神奈川縣」罫紙
（欄外印）「別紙」「寫濟」
（本文）

千八百六十七年第十月之規則書第四ケ條ニ有之候日本と條約未濟國之人民罪科有之神奈川縣尹御吟味之節各國岡士江御相談相成候儀は死罪を犯し候者ニ而無餘（ママ）儀節は格別左も無之支那人等少々之罪科を犯し候事抔ニ而は各國岡士江御相談も御不用之樣存候且又外國人ニ被傭候支那人日本之法度を犯候節は其雇主之岡士江吟味之節立會相願可然存候此段得御意候也

瑞西岡士總監　シ　ブレンワルド
北独乙列國岡士　エド　ライス
和蘭岡士　タブリウハンデルタック
白耳義副岡士勤方　ゲイセンヘーメル
以太利副岡士勤方　エフ　ブロン
葡萄牙岡士　イ　ロレーロ
米國岡士　レミュールライオン

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

○省評
〈罫紙〉片面八行「外務省」罫紙
（欄外印）「寫濟」「貿易訴訟府藩縣掛」
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
卿　印　大輔　印　議判　印　辨理
（付箋）「參考」
（本文）

參考　省中廻

條約未濟國之人民惡事有之節重罪之ものは各岡士立會輕罪之ものは不及其儀其雇主之岡士而已吟味之節立會候儀英佛兩岡士異存其餘各岡士ハ同意之旨神奈川縣より申越右は實ニ無益之手數ニ而長崎兵庫等おいても立會なく取扱居候由ニ而犯科之もの夫か爲裁斷遲延およひ病死等之もの出來候而は御仕置之詮も薄不可然候間右は米外六ケ國と同意相成候樣英佛兩公使へ御談判有之度候事

庚午九月五日

第三拾貳號、新潟縣ヨリ支那人取締向回答ノ來翰

明治三年九月十九日

〈罫紙〉片面八行「新潟縣」罫紙

（欄外書き込み）「九月十九日到來」

（欄外印）「寫濟」

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

卿　印　大輔　議判　印　辨理

（本文）

當港寄寓支那人取締向之儀ニ付去ル二月中及御問合其後御省より各公使江御應答濟之上治定之儀御達可有之積之處今般横濱おゐて支那人刑律相定り候段通達有之候旁向後は更ニ取締筋相立候樣いたし度就而ハ前條各公使江之御應答濟早々御報知有之候樣いたし度候

當港遊歩規程之儀ニ就而ハ當春中ゟ屢御問合およひ其後役員出京之節モ御示談申候處于今御報無之且又在留岡士等よりも何は不申出候へは今般管内郡替モ相濟候ニ付至急治定不致候而は取締筋ニも拘り不都合ニ付猶又各公使江御引合之上速ニ御決定相成候樣致し度存候

右兩件猶又御掛合およひ候は至急御報有之度候也

庚午九月五日　新潟縣

外務省御中

第三拾三號、神奈川縣ヨリ支那人戸籍入免狀料取立方通知ノ來翰

明治三年閏十月廿四日

附屬〇支那人人員覺書

〇神奈川縣知參事ヨリ各國領事へノ書翰

〇布告

〇漢文布告

〈罫紙〉片面八行「神奈川縣」罫紙

（欄外書き込み）「九百八號」「十月廿四日」

（欄外印）「寫濟」「貿易訴訟府藩縣掛」

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

卿　印　議判　印　辨理

（本文）

支那人戸籍入免狀料取立方毎年第一月一日ゟ第十二月三十一日迄一ケ年期限ニ有之候處以來六ケ月期限竝三等免狀料各壹弗ツヽ此度增加取極別紙之通布告いたし候間爲御心得申遣置候也

庚午閏十月廿四日　神奈川縣

外務省御中

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

附屬〇支那人人員覺書

〈罫紙〉片面八行「神奈川縣」罫紙

（欄外印）「別紙」「寫濟」

（本文）

千八百六十九年第十二月一日ゟ千八百七十年第十一月三十日迄居留地取締役所之名籍ニ入候支那人之數員覺

洋拾五弗ツヽ差出候者　三拾六人

合洋五百四拾弗

洋七弗ツヽ之者　六拾三人

合洋四百四拾壹弗

洋三弗ツヽ之者　九百〇三人
合洋貳千七百〇九弗
惣計　人數　千〇〇貳人
洋銀　三千六百九拾弗
是迄洋三弗を拂ひ來候者ハ六ケ月毎ニ貳弗ツヽ壹ケ年毎ニ四弗ツヽ相拂可申事
是迄七弗之者ハ六ケ月毎ニ四弗ツヽ一ケ年八弗相拂可申事
是迄拾五弗之者ハ六ケ月毎ニ八弗ツヽ一ケ年拾六弗相拂可申事

++++++++++++++++++++

○神奈川縣知參事ヨリ各國領事ヘノ書翰
〈罫紙〉片面八行「神奈川縣」罫紙
（欄外印）「別紙」「寫濟」
（本文）
以手紙啓達いたし候然は支那竝未盟國人戸籍料以來毎年第六月十二月兩度ニ取立方可致則半年之戸籍料當人竝店伴頭は八弗蔵預り小店當人四弗有之外ハ貳弗ツヽ取立候積ニ有之候間貴國人民之内支那人召抱江居候もの江御普告被下度此段以回旁得御意候以上
庚午閏十月十日　櫻田大參縣事
中野外務權大丞
井關知縣事
各國岡士貴下

++++++++++++++++++++

○布告
〈罫紙〉片面八行「神奈川縣」罫紙
（欄外印）「別紙」「寫濟」
（本文）
布告
當神奈川横濱港在留之支那人民ハ來ル第十二月一日ゟ同三十一日迄之内ニ居留地取締役所江出頭いたし是迄所持之名籍手形致引替可申事
以後右手形ハ毎年第六月竝第十二月ニ引替可申右半年分稅銀ハ左之通ニ有之候
一　洋銀八弗　支那商人竝支配人
一　同　四弗　金目利人蔵番人竝小見世主人
一　同　貳弗　右之外諸人
若第十二月三十一日迄ニ手形持參不致者ハ過料可差出事
神奈川知縣事之命ニ依リ居留地取締長官
イーエスベンソン

++++++++++++++++++++

○漢文布告
（欄外印）「寫濟」
（付箋）「居留地掛りハ土木の事ニ拘候を以て工部局と譯せしものニ候哉工部局にて在留の支那人を管轄するは既ニ不穩名義なり況んや今般工部省を被置候上ハ尤不該ニ屬すべし早速返書ニ心附遣すへし　印」
（本文）
聞説横濱開港以來或有未盟國民私附同盟國民而來者清國人最爲多矣間有擅開舗店以營生業者況有困乏無告之徒詭謀百出以害同盟國民不爲不少等由甚爲不該本當逐名査問趕回本國只怕該輩一旦進退維谷呼籲之聲喧起亦覺不忍爲也蓋観天下萬國大勢互相交通往來之便一時萬于開港之地者隨處隨有此固理之所致目下常事也故照萬國公法從權默許該人民等寓居本港如有孤客孑然一身冒涉萬里滄海而來無如仰遵其國法令靠依無門孤掌難鳴者宜垂仁政普加憐恤至如奸徒刁民犯法背教而害良民者應照國律嚴行懲治汝等未盟國民各須洞悉競々遵守決勿有誤此　諭
明治三午年閏十月　神奈川縣工部局

++++++++++++++++++++

凡清國籍民來往于本港者無論何等身分本月初九日爲首限三十五天内必當親來投名于本公署圖籍以得名牌而遵我法令受我保護無此牌者發覺之日嚴行處治概

不寛容各須體會此意
明治三年年閏十月

名牌費開列于左

毎名鷹洋　八員　買辨・商人
毎名　仝　四員　家僕・工人
毎名　仝　貳員　夫子・無傭主者

今定一年分兩次領牌
故以上之牌費乃是半年之銀也

第三拾四號、神奈川縣へ前件回答ノ往翰

明治三年閏十月廿七日

〈罫紙〉片面八行「外務省」罫紙
（欄外書き込み）「九百廿號」「閏十月廿七日達」
（欄外印）「寫濟」「貿易訴訟府藩縣掛」

****

卿　印　議判　印　辨理　印

（ゴシックは修正部分）

（本文）

外務省

神奈川縣御中

支那人戸籍入兎狀料取立方之儀ニ付別紙布告書寫添云々御來示之趣致承知候
右布告書之内摺物之分神奈川縣工部局と有之候は居留地掛りハ土木之事ニ拘
るを以て工部局と譯せしものニ可有之哉乍然工部局ニて在留之支那人を管轄
致し候は既ニ不穩名義ニ有之候處今般工部省被置候上は工部局**之名義猶更不
都合と存し右等御体裁ニ係る事ハ以來御心付可被下候**依之回答旁此段申入候
也

庚午閏十月

明治三年閏十二月日

〈罫紙〉片面八行「外務省」罫紙
（欄外書き込み）「千八十七號」「十二月」
（欄外印）「寫濟」

****

卿　印　大輔　印　議判　印　辨理　印

（ゴシックは書き込み）

（本文）

外務省

神奈川縣御中

當午上半ケ年分船數調之内布哇國之商船三艘入津いたし居右は條約未濟國之
儀**ニ有之**渡來之趣意竝御取扱方共巨細御取調被御申越候様いたし度此段申入
候也

庚午十二月　日

第三拾六號、神奈川縣ヨリ前件回答ノ來翰

明治三年十二月八日

〈罫紙〉片面八行「神奈川縣」罫紙
（欄外書き込み）「千百廿三號」「十二月八日」
（欄外印）「寫濟」
（付箋）「米公使ゟ書翰ニ而もさし越有之哉又は其時之對話書等取寄せ之上
ニ而各港へ爲心得相達置へき事」

****

卿　印　大輔　印　議判　印　辨理

（本文）

外務省御中

神奈川縣

先達而差遣候船數調ニ有之布哇國商船之儀御問合之趣承知いたし候右は去々
辰年中米國公使ゟ自國船同様取扱呉候様申出寺嶋公御引合相成其自來米國船
直取扱居候且當爾半年分船數調布哇船三艘之内壹艘は上野大蔵大丞同地ニ而
相雇御國賊民乘遣越候壹艘は鯨漁船壹艘は商船ニ有之出入港手數等考候而米
國條約面を爲守候儀ニ有之候此段御答如斯候也

庚午十二月八日

第三拾七號、神奈川縣へ前件取扱方送致スヘキ旨照會ノ往翰

明治三年十二月日欠

〈罫紙〉片面八行「外務省」罫紙
（欄外書き込み）「千貳百七號」「十二月」
（欄外印）「寫濟」「貿易訴訟府藩縣掛」
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
卿　印　大輔　印　議判　印　辨理
（本文）　（ゴシックは書き込み）
神奈川縣御中　外務省

先達而及御掛合候布哇船米國商船之振合を以御取扱相成候趣右は米公使ゟ書翰ニ而も差越居哉又は對話而已之儀ニ候哉書翰**有之候ハヽ**一覽いたし度候共不差越居候ハヽ其節之對話書御寫取御差廻し有之度此段及御掛合候也

庚午十二月

第三拾八號、神奈川縣ヨリ前件ハ去ル辰十二月中大浦（ママ）米公使ヘノ對話記同送ノ來翰

明治三年十二月廿五日

〈罫紙〉片面八行「神奈川縣」罫紙
（欄外書き込み）「千貳百五十號」「十二月廿五日」
（欄外印）「寫濟」「貿易訴訟府藩縣掛」
（付箋）「猶當番判（事）（ヘカ）へも差廻可申候」
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
卿　印　輔　議判　印　辨理　印
（本文）

布哇船之儀米國商船之振合を以取扱候ニ付而は米公使より之書翰或ハ對話書有之候ハヽ寫取御廻し可申旨再應御掛合之趣致承知候右は去ル十二月中寺嶋公米公使と之御對話ニ而取極り候儀と存候別紙二通之留記有之而已ニ而書翰竝對話書共無之候此段及御答候也

庚午十二月廿五日　神奈川縣

外務省

附屬〇別紙筆記　貳通

①

〈罫紙〉片面八行「神奈川縣」罫紙
（欄外印）「寫濟」
（本文）
「當番　判事」

ハワイ船を他條約濟諸國之船同樣取扱呉候樣米公使申出候間免狀中ニ米國條約ニ從て右國之船荷陸上差許スと記し可申旨運上所江達し可被成候已上

十八日

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

②

〈罫紙〉片面八行「神奈川縣」罫紙
（欄外印）「寫濟」
（本文）
＊（欄外書き込み）「辰三月廿日陶蔵殿江御一覽入」
入港手數銀請取案
米國附屬ハワイ國スウアス船
船司ヘーガル
拾五弗

米國公使申立之趣も有之ニ付同國條約を奉すへし
右入港手數銀取立もの也

辰十二月廿日　神奈川縣

運上所印

第三拾九號、神奈川縣ヨリ支那官員渡來右ハ氷解ヲ待出京ノ積回答ノ來翰
但往翰脫ス

明治四年正月十一日

〈罫紙〉片面八行「神奈川縣」罫紙
（欄外書き込み）「廿八號」「正月十一日」
（欄外印）「寫濟」「各港掛」

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

卿　印　大輔　印　議判　印　辨理

（本文）
支那官員舊冬中渡米いたし候用向公私之譯御承知被成度旨御來示之趣承知右ハ安徽之道臺ニ而今般北京江可罷越用向有之候得共嚴寒之時節故春暖ニ至り氷解を待出京之積右待合中當港見物可被申罷越候儀ニ而着之儀ハ去冬西洋二月八日ヲレゴニヤ船ニ而來四月十二日コスタリカ船ニ而歸帆いたし居儀ニ有之候此段申入候也

辛未正月十一日　神奈川縣

外務省御中

第四拾號、英公使館書記官ヨリ支那人へ布令ノ儀ニ就キ問合ノ來翰

明治六年二月九日

〈罫紙〉片面八行「外務省」罫紙
（欄外書き込み）「雜ノ十七ノ二條約未濟國人取締云々」
（欄外印）「寫濟」「第四拾號」
（本文）
明治六年二月九日
一　英國公使館ゟ之書翰
神奈川縣ニ於而支那人之儀ニ付致布令候一件會議之節起論見合候樣御内談之趣公使へ申聞候處右は全同縣令一存ニ而貴政府御同意ニ無之今般初而相聞へ評議最中之趣掛者ゟ同僚へ申聞候而も御異存無之候ハヽ十三日迄見合候樣成丈取計可申候依之御異存之有無早々御申越有之度候敬具

二月九日　英國公使館

エルネストサトウ

宮本外務大丞貴下

尚以成尾屋之儀ハ神戸へ申遣候間同人ゟ返事次第先日之書翰ハ差遣候樣可仕候

第四拾壹號、大阪府知參事へ在留支那人へ布告方ニ就キ具狀書

明治六年二月十九日

附屬〇別紙布告書

〈罫紙〉片面八行「大阪府」罫紙
（欄外書き込み）「六年大坂來」　中央罫線に「第三百二十六號」
（欄外印）「辨事局」「取決物」

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

卿　輔　辨事局　印　右局　考法局

（本文）
在留支那人江布告候儀ニ付伺
當港在留支那人共遊歩規程ヲ犯シ且密商ヲ謀候節罰金之定限無之不都合ニ付各國條約第二則第三則ニ做ヒ別紙之通取計可申と存候依而布告案相添此段相伺候間至急御指圖有之度候也

第二月十九日

大坂府權參事　木内綱
大坂府參事　渡辺弘　印
大坂府權知事　渡辺昇　印

外務卿輔御中

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

附屬〇別紙布告書

〈罫紙〉片面八行「大阪府」罫紙

（本文）

支那人は我日本ト各國ト之條約ニ記載（本文「裁」）セシ遊歩規定ヲ犯シ他行之者ハ其犯セル毎ニ百弗之罰金ヲ可取立亦密商等相巧ミ候者ハ其品取上ケ犯セル毎ニ千弗之罰金ヲ可取立候ニ付此旨可相心得もの也

月　日　　大坂府權知事渡辺昇

第四拾貳號、大阪府知事へ支那人遊歩規則竝密商ノ儀回答ノ往翰

明治六年三月四日

〈罫紙〉片面八行「外務省」罫紙

（欄外書き込み）「三月四日達濟」「六年大坂往」

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

卿　花押　輔　印　辨事局　印　左局　右局　考法局　印

（本文）

渡辺大坂府權知事殿　　副島外務卿

支那人遊歩規程竝密商之儀ニ付別紙布告案添伺之趣領承然る處清國之儀は假條約も有之遊歩規程外を犯しおる者罰金可取立ケ條掲載無之と雖通章商程十三款ニ兩國何れも仕來り之規則ニ依而取計へしと有之上は各國條約最後之独乙條約ニ基く罰金取立候而も不苦候得共大體十三款ニ照準し可被取計候密商之儀も同商程二十七款ニ有之候間是固ケ條ニ照シ所置可爲致候は何れも通商商程ニ掲載有之ケ條ニ付此廉中布告致し候は却而不都合ニ付此布告は替時可致見合候此段回答申入候也

明治六年二月

第四十三號、神奈川縣權令ヨリ條約未濟國人之儀ニ付各國領事方達方伺書

明治六年六月廿日

附属〇神奈川縣權令ヨリ各國領事へ之書簡

〈罫紙〉片面八行「神奈川縣」罫紙

（欄外書き込み）「六月廿日」　中央罫線に「千四百十九號」

（欄外印）「寫濟」「辨事局」

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

輔　花押　右局　印　考法局

（本文）

條約未濟國人之儀ニ付各國領事へ達方伺書

條約未濟國人當港江在留之上ハ必當縣江入籍可致之處其儀無之且又在留各國人ニ於而も右等無籍之者ヲ差置其者ニ付願向等有之候節は未濟國人之譯ヲ以當縣へ處置方願出候輩も有之甚不都合ニ付今般別紙之通各國領事へ相達候様仕度此段相伺申候以上

明治六年六月廿日　　神奈川縣權令大江卓印

外務少輔上野景範殿

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

附属〇神奈川縣權令ヨリ各國領事へ之書簡

〈罫紙〉片面八行「神奈川縣」罫紙

（欄外印）「寫濟」

（本文）

以書翰致啓達候然は我國ト條約未濟國人當港へ在留致候節は我國江入籍可致儀勿論ニ有之且又在留貴國人民ニ於而も總而他國人ヲ差置候節は必何レ之戸籍ナルヤヲ取調可申御座候得共往々未濟國人民ニ而未タ當縣へ入籍セザル者も有之哉ニ相聞候間以後貴國人方へ召仕或は住居爲致候者は必其名籍ヲ相糺候様致度若シ無籍之者ヲ差置後日其者ニ對し願意有之當縣へ申立候共一切取上不申候間右之趣兼而在留貴國人民へ御布達有之度此段申進候以上

明治六年六月　日　　神奈川縣權令大江卓

各國領事　各貴下

第四十四號、神奈川縣權令へ前件之儀ニ付云々回答往簡

明治六年七月廿七日

○各國領事ヘノ回章案
○仝布告案

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙
〈欄外書き込み〉「七月廿七日　六年」「神奈川往」「第一千三百八十五號」「考法局第十一號」「七月廿七日達了」
〈欄外印〉「寫濟」

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

輔　印　辨事局　印　考法局　印

（ゴシックは書き込み）

〈本文〉
條約未濟國人其港ゟ在留の上ハ必す其縣ゟ入籍致すへく云々各國領事江達案相添御申越入候處右達案ニてハ實際ニ於て不都合ニ可有之存候依て別紙の通ニ相改め**可然と存候間實地參考之上**尚異見可申出候此段申入候也

明治六年七月

外務少輔

神奈川縣權令大江卓殿

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

附屬○各國領事ヘノ回章案

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙
〈欄外印〉「寫濟」「別紙」
〈本文〉

各國岡士江の回章案

以手紙啓達致し候然ハ條約未濟國人民當港江在留の上ハ必す當縣江入籍致すへく筈の處其儀無之甚々不都合の儀ニ付今般別紙之通布告致し候間貴國人民中條約未濟國人民を御傭居り候者江御布告被下度候敬具

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

附屬○仝布告案

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙
〈欄外印〉「寫濟」「別紙」
〈本文〉

布告案

條約未濟國人民當港ニ在留する者は久暫を論せす必す當縣廳江申立入籍手數致し籍牌申請置へき筈ニ有之候處未た當縣江入籍せさるものも往々有之哉ニ相聞甚々不都合の儀ニ付當今在留條約未濟國人民中若し當縣江未た入籍致さゝる者有之候ハヽ來る何月何日より何月何日迄の間當縣江申立入籍手數致し籍牌申請なし（ママ）自今此手數を怠り當縣の籍牌申請さる者有之露顯ニ及ふ時は左の通りの罰金（罰金の横に「過料」並記）取立へし

洋銀十六弗　買辨・商人
〃　八弗　家僕・工人
〃　四弗　無傭之者

右は籍牌稅銀半年分の二倍の銀也

月　日

神奈川縣權令大江卓

第四十五號、神奈川縣ヨリ前件回答ノ來簡

〈罫紙〉片面十行「神奈川縣」罫紙
〈欄外書き込み〉「十月二日」中央罫線に「十月　三十二號」
〈欄外印〉「寫濟」「辨事局」「要領記載」

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

卿　輔　花押　辨事局　左右局　考法局

〈本文〉
條約未濟國人當港江在留之上は必當縣江入籍可致云々各國領事江達案相伺候處右達案ニ而は實際ニ於而不都合ニ有之依而別紙之通ニ而可然哉之旨云々御申越之趣承知致し候則御申越之通ニ而差支無之候間其通取計可申候此段御報旁申上候以上

明治六年十月二日

神奈川縣權令大江卓　印

外務少輔上野景範殿

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

〈罫紙〉片面十行「内務省」罫紙
（欄外書き込み）中央罫線に「三月七日　第六十五號」
（欄外印）「寫濟」
（本文）
條約未濟國人取締規則之内支那人之儀各港江毎年居留免狀相渡手數料取立來候趣之處先般御締約之振ニ而相変候儀は無之候哉右條約書は今御摺刷中之由ニ而未タ條約之趣承知不仕仍而及御尋候條乍御手數否至急御應相願申候也

三月七日　内務省録中

外務省録御中

整理番号外、法律上成年未丁年ノ歳期ニ付柳原外務大丞ヨリ司法大少丞へ照會ノ件　明治七年二月

附属：柳原外務大丞宛の司法大少丞回答

〈罫紙〉片面十行「外務省」罫紙
（欄外書き込み）「七年　二月十二日達」

****

右局　花押
（本文）　（ゴシックは書き込み）

司法大少丞御中　柳原外務大丞

本邦從前民法確立せさる前十五或ハ十七を以元服之期とし成年と見爲候ハ通常之慣習ニ有之然ニ在留清國人取締向ニ付右幼長歳期判明不致候てハ御差支之廉有之候條當今人民取扱上ニ付右等ハ如何之振合ニ有之候や尚將來之御見込とも併而至急承知いたし度此段御問合およひ候**折返し御報有之度候**也

二月十二日

＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋＋

附属：柳原外務大丞宛の司法大少丞回答

〈罫紙〉片面十行「司法省」罫紙
（欄外書き込み）「右局照會」中央罫線に「二月十三日　第四十三号」
（本文）
長幼歳期御問合之趣承知致シ候右ハ現今法律上ニ於テ滿十五年迄ヲ幼者ト爲シ其以上ヲ成年ト相定メ有之候此段及御廻答候也

明治七年二月十二日　司法大少丞

柳原外務大丞殿